

# 平成19年からあなたの所得税・住民税（町道民税）が変わります。

平成19年から税源移譲により、所得税と住民税の税率が変わります。

## 「何が変わるの？」

「地方のことは地方で」という方針のもと、地方分権を積極的に進めていく「三位一体の改革」が実現します。その柱といえるのが、今回の「税源移譲(せいげんいじょう)」です。税源移譲では、所得税(国税)と住民税(地方税)の税率を変えることで、**国の税収が減り、地方の税収が増える**こととなります。およそ3兆円の税源が、国から地方へ移譲されます。

## 「どう変わるの？」

税源移譲によって、地方は必要な財源を直接確保できるようになります。これにより、住民は**より身近で、よりよい行政サービス**を受けられるようになります。

<b>所得税</b>	平成19年1月分から適用	4段階の税率を、 <b>6段階に細分化</b> (所得税と住民税を合わせた税負担が変わらないように制度設計)
<b>住民税</b>	平成19年6月分から適用	3段階の税率から、 <b>一律10%に</b> (都道府県民税4%・市区町村民税6%)

ほとんどの方は、**1月分から所得税が減り、そのぶん6月分から住民税が増える**こととなります。しかし、**税源の移し替え**なので、「所得税+住民税」の**負担は基本的に変わりません**。

### 例：税源移譲による負担変動（年額）

#### 独身者の場合

給与 収入	税源移譲前			税源移譲後			負担 増減額
	所得税	住民税	合計	所得税	住民税	合計	
300万円	124,000円	64,500円	188,500円	62,000円	126,500円	188,500円	0円
500万円	258,000円	163,000円	421,000円	160,500円	260,500円	421,000円	0円
700万円	474,000円	307,000円	781,000円	376,500円	404,500円	781,000円	0円

#### 夫婦 + 子供2人の場合

給与 収入	税源移譲前			税源移譲後			負担 増減額
	所得税	住民税	合計	所得税	住民税	合計	
300万円	0円	9,000円	9,000円	0円	9,000円	9,000円	0円
500万円	119,000円	76,000円	195,000円	59,500円	135,500円	195,000円	0円
700万円	263,000円	196,000円	459,000円	165,500円	293,500円	459,000円	0円

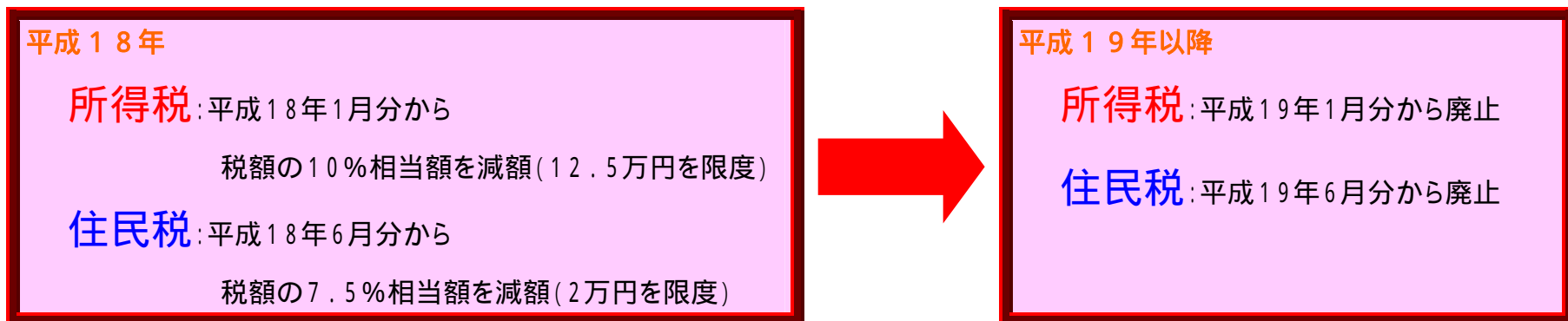
夫婦 + 子供2人の場合、子供のうち1人が特定扶養親族に該当するものとしています。  
一定の社会保険料が控除されるものとして計算しています。

このほか、実際の負担増減額には、平成19年から定率減税が廃止される等の影響があることにご留意ください。

## 税源移譲以外の主な変更点

### 定率減税が廃止されます。

平成 11 年度から、景気対策のために暫定的な税負担の軽減措置として導入されていた定率減税が、最近の経済状況を踏まえて廃止されます。(所得税は平成19年1月分、住民税は平成19年6月分から)



### 例：夫婦 + 子供2人・給与収入700万円(年額)

#### 平成18年

住民税	196,000 円
定率減税	14,700 円
所得税	263,000 円
定率減税	26,300 円
合計	<b>418,000 円</b>

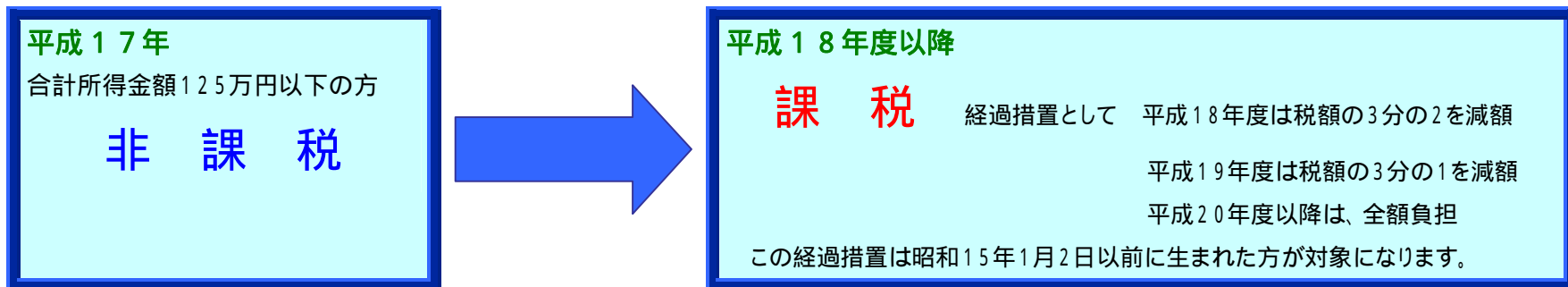
#### 平成19年

住民税	293,500 円
所得税	165,500 円
合計	<b>459,000 円</b>

子供のうち1人が特定扶養親族に該当するものとしています。  
一定の社会保険料が控除されているものとして計算しています。

### 住民税の老年者非課税措置が廃止されましたが、経過措置がとられています。

平成17年1月1日現在、65歳以上の方(昭和15年1月2日以前に生まれた方)で、前年の合計所得金額が125万円以下の方は、平成17年度まで住民税が非課税でしたが、年齢に関わらず公平に負担を分かち合うという観点から、この措置が平成18年度から廃止され、現役世代と同様の制度が適用されています。ただし、急激な税負担を緩和するため経過措置がとられています。



### 例：70歳独身・年金収入200万円(年額)

平成17年度	平成18年度	平成19年度
住民税 非課税	住民税 19,900 円	住民税 37,300 円
	定率減税 1,500 円	住民税 × 1/3 12,434 円
	(住民税 - 定率減税) × 2/3 12,267 円	
所得税 34,800 円	所得税 34,800 円	所得税 17,400 円
定率減税 6,960 円	定率減税 3,480 円	
合計 27,840 円	合計 37,453 円	合計 42,266 円
(税額 27,800 円)	(税額 37,400 円)	(税額 42,200 円)

一定の社会保険料が控除されているものとして計算しています。

年金収入200万円の方は、年金に係る控除を行った後の合計所得金額は125万円以下なので、経過措置が適用されます。

各例の住民税(年額)は所得割に係るもので、このほか均等割りが課税されます。